



一般質問に28人が登壇

人権 無視の 差し押さえは中止を



秋山 文和
議員

先日、市民の方から、差し押さえに関する市の対応についての相談を受けました。

その方は自営業で、数百万円の滞納があり、平成18年から分納を続けていました。しかし、突然、貯金と生命保険を差し押さえられ、営業も生活もできなくなってしまうました。約束どおりの金額を期日どおりに分納できなかったときもありましたが、一生懸命払い続けていたのに、市の対応はあまりにもひどいというものでした。

差し押さえという重大な行政処分に至るまでには、納税者の生活実態に沿った、血の通った対応があつてしかるべきだと考えます。人権を無視するような差し押さえは、やめるべきと考えますが、いかがでしょうか。

○財務担当部長

差し押さえに当たっては、滞納額や滞納期間だけでなく、

さまざまな情報を総合的に勘案して実施しています。

また、滞納者との面談により、仕事や家族構成等を考慮した検討を行っており、生活や経済状況についても、一定の配慮をして対応しています。

○市長

事前に滞納者の状況把握に多くの時間をかける等、慎重に対応しています。引き続き、法律に基づき適正に対応していきたいと考えています。

このほか

○財政健全化のもたらす市民犠牲

○お風呂の再開を

藤の街かすかべ ブランディングについて



岩谷 一弘
議員

以下、質問します。

①藤関連イベント・商品について

②藤前線について

③今後の取り組みについて

○市民部長

藤関連イベントの状況については、現在、藤まつりと藤まつりウィークが行われてい

ます。また、藤に関連する商品としては、藤うどん、焼酎かすかべ藤乃彩、春日部やきそばがあります。

春日部駅東口のぶらっと広場や、牛島の藤の玄関口である藤の牛島駅周辺で行う新たなイベントについては、関係部署と連携して、同時期に行われる他のイベントとの調整を図りながら、さまざまな方法を協議していきたいと考えています。

○市長

全国の藤の街と地域連携を図り、藤に関するイベントの開催情報の発信や藤にまつわる商品開発等、藤が春日部市のブランドとして全国的に認知され、交流人口の増加につながるよう努めます。

藤前線については、全国の藤に関連する団体、気象関連団体や報道機関、交通事業者等に協力を要請しながら、藤前線という言葉が、桜前線と並び称される春の風物詩となり、来街者が増加するようPRを図っていきたいと考えています。

このほか

○エコまちづくりについて

○特定健康診査と健康づくり事業について

クレヨンしんちゃんの 活用について



鬼丸 裕史
議員

クレヨンしんちゃんは、当市を代表する地域資源です。人気者であるクレヨンしんちゃんが当市を紹介することで、多くの方から注目され、相乗効果が期待できると思います。

そこで、クレヨンしんちゃんがかまちの案内人として、当市の地域資源である藤や大嵐おぼろぎを日本国内外に発信してはいるかが伺います。

また、クレヨンしんちゃんの銅像など、ハード面の整備を行い、まちなかに新たなにぎわいや観光の名所を創造してはいるかが伺います。

○総合政策部長
今年度から、活力とにぎわいのあるまちづくりを進めていくことを目的に、まちの案内人として、クレヨンしんちゃんの活躍の場を広げたいとします。

具体的には、「春日部魅力発見ガイドマップ」の発行や、

「クレヨンしんちゃん一家の特別住民票」の販売、「クレヨンしんちゃん特別展」の開催を予定しています。

今後、市の子育て施策の定着を図るとともに、当市の魅力を積極的に発信していくために、さまざまな場面で工夫をしながら、クレヨンしんちゃんの活用を図ってまいります。

○このほか
○環境都市を目指して
○いきいきと老後を過ごせる街について
○特別支援教育の充実について

市外の医療機関受診時の 窓口払い撤廃について



栗原 信司
議員

本市では平成19年4月から、子ども医療費に関する窓口払いが、市内の医療機関に限り撤廃され、とても好評です。

しかし、出産で市外の実家に戻った場合や、そのほかもろもろの事情で市外の医療機関を受診した場合には、その医療機関で一度支払うことに

インクカートリッジ 里帰りプロジェクトへの 参加を提案する



大山 利夫
議員

「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」とは、プリンターのインクカートリッジを回収し、再資源化するものです。自治体として回収したのは北九州市が初めてで、昨年7月から本庁舎等に回収箱を設置しました。県内では、三郷市が本年7月から、市役所や公民館等、市内21カ所に回収箱を設置予定で、実施されれば県内初となります。

本市は、環境基本条例の前文で、「相互に協力して環境への負荷の低減に努め、持続的な発展が可能な循環型社会を築くため、この条例を定めます。」とうたっています。

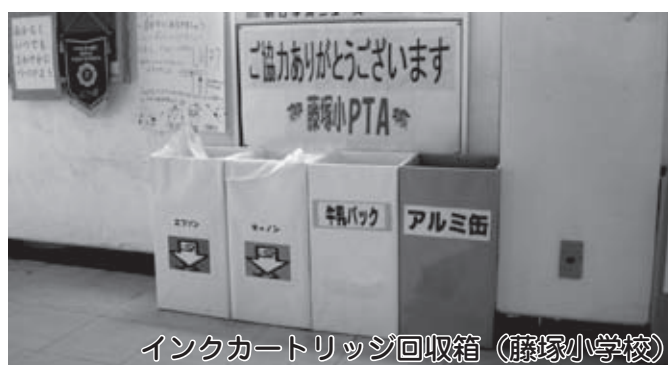
そこで、本市もこの里帰りプロジェクトに参加することを提案しますが、市の考えをお聞かせください。

○環境経済部長
本市のリサイクルの推進、循環型社会の構築の観点から、里帰りプロジェクト事務局等

の関係機関と調整し、早急このプロジェクトに参加したいと考えています。

○このほか
○園芸福祉について
○「県の防犯診断」を市の公式ホームページ等で周知することを提案する
○「空き家対策条例」の制定を提案する
○孤独死対策と買い物難民対策を問う
○市業務の委託事業者に報告書の提出を義務づけることを提案する

○道路舗装等の整備について
○信号機等の設置要望



インクカートリッジ回収箱 (藤塚小学校)

保育所待機児童解消に
向けての今後の取り組み



英明 滝澤 議員

本年4月から、3000人を超える保育所の定員増が図られたため、4月1日時点での保育所の待機児童は18人となりました。しかし、6月1日現在では28人となり、10人増えている状況です。

待機児童の年齢別内訳を見ると、0から2歳児までが大半を占めています。これは、職場復帰を望んでいるお母さんたちの要求度が、年齢が低いほど高いということだと思います。

そのため、待機児童解消に向けた取り組みとして、特に低年齢児の受け入れができるような整備を推進してもらいたいと思います。

そこで、今後の民間保育園の整備や拡充の計画と、市の取り組みについて伺います。

○福祉健康部長

本市では、これまでも待機児童ゼロを目標として、民間

保育所と一体となつて、認可保育所の定員増を積極的に行ってきました。

本年度は、豊春中央保育園の建て替えを行い、来年4月から26人の定員増となります。

今後は、待機児童の多い地域等に重点を置き、国や県の補助事業を十分に活用し、民間保育所の新規及び分園の開設や定員増による整備、認可外保育施設から認可保育施設への移行に伴う整備等を進めていきます。

このほか

○地震災害発生時における市の対応について



市立第9保育所

子どもを安心して
預けられる保育所に



徳安 今尾 議員

現在、認可されている保育所への入所を希望しながら、入所できずにいる待機児童は、全国に5万人いると言われて

います。

本市は、今年度から育児休業中の継続保育期間を年度末までとしました。そのため、生後3カ月の乳幼児を保育所に預けて仕事に復帰するお母さんも見受けられます。期限を設けることは、待機児童を減らすための手立てであると思われませんが、生後3カ月の0歳児を預けなければならぬことを考えると、期限を設けることが、かえって保育所への入所を促し、待機児童を増やすことになるのではないかと懸念されると思います。

本市が子育て制度の充実を図っていくことは、市民の皆さんにとっても、非常に重要なことであると認識しています。そこで、育児休業中の継続保育期間を年度末までとす

ることは、やめるべきと考えますが、なぜ実施することになったのか伺います。

○福祉健康部長

本市の育児休業中の継続保育期間については、年度途中での保育所への入所が大変難しく、保護者の職場への復帰にも支障を来すと考えられることから、すべての児童を対象とした上で年度末までとし、今年度からの運用を実施したところ です。

このほか

○内牧の果樹園を守るために
○人間ドックの早期再開の具
体化を

地域産業の
活性化について



進 金子 議員

景気低迷の中、各地で地域産業の活性化対策として、一般競争入札の拡大が図られています。当市でも市内業者の育成と市内経済の活性化を図る観点から、地域要件等を加えた一般競争入札を実施しています。

しかし、地元業者は低迷し

た経済情勢、さらに入札制度改革による低入札価格や、市内への新規参入業者が増えるなど、経営状況は大変厳しいものと伺っています。

市の事業については、なるべく地元業者に請け負っていただき、地元産業の活性化につながるよう、受注機会の確保について伺います。

○総務部長

地元業者の受注機会の確保については、すべての入札に市内業者を参加対象とし、市内業者と競合する案件は、市内業者の格付けをより広くして、市内業者に受注機会の拡大を図っています。

また、大規模かつ技術的難易度が高い工事は、市内業者を必ず構成員とする建設工事共同企業体についても検討し、市内業者の受注機会の確保を図っています。

今後も入札改革に努め、競争性を確保しつつ、より多くの市内業者が競争の結果、受注を通じて技術力を高め、品質の向上を図っていただきたいと考えています。

このほか

○市道2-1号線及び市道2-11号線の今後の工事計画について

ITの活用で、さらなる 効率的な行政運営を



中川 朗
議員

総務省が2006年にIT新改革戦略を立て、世界一便利で効率的な電子行政を目標に、オンライン利用率の向上を目指し、電子自治体の推進に関する懇話会を設置しました。

当市でもオンライン化を進めています。現在の利用状況や今後の展開を伺います。

また、基幹系システムの更新には、市民サービスに直結する窓口業務の効率化が重要ですが、窓口業務の効率化や改善方法について伺います。

○総合政策部長

当市で導入している電子申請システムは、県が開発した共通システムを共同使用しています。現在、住民票の写しの交付や情報公開請求など、50種類の申請等ができ、平成21年度には254件の利用がありました。本年7月からは、携帯電話での簡易申請システムを利用できるようになり、

イベントの申し込みや意見・要望の応募など、これまで以上の活用が期待できます。

次に、基幹系システムの更新後は、業務間の情報共有が可能となり、各種の問い合わせに対し迅速な対応ができるようになります。さらに、各種データの抽出や加工が容易になり、統計処理や業務確認作業が省略化でき、窓口業務の体制の充実や市民サービスの向上が可能になります。

このほか

○廃食油の再利用について

○市内共通商品券での市税等の納付について

企業誘致について



山口 泰弘
議員

国道4号バイパスと国道16号線の交差点付近を中心とした地域は、交通の便もよく、将来の東埼玉道路接続も考え、奨励金によって企業誘致を行っています。より多くの企業を呼び込むため、奨励金の対象区域を拡大してはいかがでしょうか。

また、旧春日部市と旧庄和町を結ぶ幹線道路「藤塚米島線」の事業も進みますが、幹線道路の沿道地域も土地を転換することで、当市の総合的な発展に寄与すると考えます。この地域の開発を後押しする取り組み方針を伺います。

○都市整備部長

企業誘致奨励措置の対象は、当市の交通の要衝となる国道4号バイパスと国道16号線の交差点付近を「産業集積ゾーン」と位置付け、産業指定区域としています。

企業誘致における対象区域は、居住環境と事業活動環境のバランスを考慮し、また、国の重要施策である優良農地の保全の観点から、慎重に進めていく必要があります。

次に、藤塚米島線沿いの発展のための取り組みですが、旧春日部市と旧庄和町を結ぶ藤塚米島線は、当市の発展に重要な路線と考えています。

そのため、沿道の土地利用を促進する機能が必要であると認識しており、現在、市街化調整区域沿道の都市的土地利用の可能性を研究しています。

このほか

○市民プールについて

子宮頸がんワクチンに 公費助成を



五十嵐みどり
議員

子宮頸がんは、年間約1万5000人の女性が発病し、約3500人が亡くなっています。原因はヒトパピローマウイルスで、ワクチン接種により約70パーセント、検診も実施すると100パーセント予防できます。しかし、ワクチン接種は半年間に3回接種し、費用は5万円前後と高額なこと、自己負担での接種は難しいものです。そこで、当市として公費負担と子宮頸がん予防の啓発活動も共に推進していただきたいと思

います。また、12歳の女子に接種した場合、がんの発生・死亡を共に約73パーセント減らせ、しかも210億円の接種費用に対し、約400億円の医療費を削減できると大学教授が発表しています。

公明党は、子宮頸がん予防法を参議院に提出しました。当市としても、全額国庫補助

を国に求めるよう要望します。

○健康保険担当部長
予防ワクチンの接種を全額公費で実施した場合、約2億円の財源が必要となり、現時点では難しい状況です。そのため、子宮頸がん検診の受診率向上を図るとともに、国や県の動向を注視していきます。

検診の受診率向上の啓発は、広報紙や市ホームページ、健康まつり等のイベントで周知しており、今後も努力します。

このほか

○春日部市の環境問題

○発達障がい児対応「デイジー教科書」の活用について



公共施設の 改修事業について



佐藤 一
議員

人口24万人の本市は、県内東部地域の中心都市として発展を続けています。市内には小中学校の校舎をはじめ、さまざまな公共施設があり、私たちの市民生活を支える重要な役割を果たしています。

しかし、これらの施設は、建設されてから半世紀近くが経過しているため、老朽化がかなり進んでいます。このことが市民サービスの低下を招くのではないかと懸念されているところ です。

本市の財政状況は、非常に厳しい状態であると聞いています。小中学校の校舎や体育館、公民館などのすべての施設を改修するためには多額の経費が必要のため、国や県の補助金や交付金等を有効に活用することが必要です。

施設の改修を行う際には、改修の必要性をあらかじめきちんと把握し、優先順位を決めた上で改修計画に基づき進

めていくことが重要であると考えられます。

そこで、公共施設の維持管理や改修を、今後どのように進めていくのか、市の考えをお聞かせください。

○総務部長

今後は、アセットマネジメント計画をテーマにした特別行政課題の研修報告書をもとに、庁内で協議・調整を行い、課題を整理した後に計画を策定し、公共施設の維持管理を計画的かつ効率的に進めていきたいと考えています。

このほか

○公民館について



矢島 章好
議員

地球環境にやさしい 街づくり

私たちにとって地球の温暖化は深刻な問題です。過剰に排出されるCO2などの温室効果ガスは、大気や海洋の温度を年々上昇させます。現在、国は2020年までに温室効果ガスを、1990年対比で25%削減することを目標としています。

連続立体交差 事業について



井上 英治
議員

「鉄道高架だより第3号」に、内谷陸橋が残る計画に変更となっていたがどうか。また、仮に残すと、粕壁東地区の三愛保育園と南公民館の間にある伊勢崎線第120号踏切が残ります。しかし、この踏切は非常に狭く、段差があり、利用者も増え、非常に危険な状況です。具体的に、踏切板を増やすなど安全性の確保について伺いたい。

さらに、東西分断が解消される鉄道高架や、歩行者用デッキ方式を検討してほしい。

○環境経済部長
今後は、エコファミリー認定制度の導入を図るなど、市民の皆さんがエコ活動を楽しみながら参加できる多くの取り組みを進めていきたいと考えています。また、ホームページ等を通して、低炭素社会づくりに向けた情報提供も行っていききたいと考えています。

○建設部長
東武伊勢崎線第120号踏

本事業の事業主体である県と国土交通省の協議により、内谷陸橋の機能を有効に活用する観点から計画を見直し、内谷陸橋を残し、事業区間を縮小し、工事期間中の地域に与える影響の軽減に努めた結果と伺っています。

○高年齢者福祉の充実について
○少子化対策について



東武伊勢崎線第120号踏切

切については、すれ違いの際などに歩行者及び自転車の通行により、安全性が確保されている状況ではないと認識しています。踏切の拡幅及び踏切内の踏切板の増設について、東武鉄道株式会社へ伺ったところ、「踏切の安全性から、踏切の全体的な幅員は増やさない原則により、他の踏切を閉鎖する整備方法を行っているため、現状においては踏切内を拡幅することは大変難しい。」ということでした。

このほか

○中学校武道必修化について
○日比谷線の快速化について

春バスの台数を増やし
路線の改善、交通
空白地域の解消



大野とし子
議員

地域交通網の整備は、市民が生き生きと生活していくためのまちづくりの基本で、春バスの充実と改善は、多くの市民の願いです。

庄和地域では、路線の変更等により、多くの方が不便を感じていて、西宝珠花地区北部の方は、庄和総合支所や南桜井駅など、庄和地域の主要な場所への運行経路がありません。

赤沼地区等の交通空白地域では、病院や買い物に行くなど、日常生活でも多くの困難を抱え、高齢者が引きこもりがちになる状況があります。

8月には庄和児童センター、11月には庄和図書館が開設します。子どもたちを含めた市民の方が、市内のどこからでも通いやすくなるような運行経路の改善が重要です。

第2次運行計画を策定中ですが、増車や路線の改善等の検討方法について伺います。

都市整備部長

春バスの増車、交通空白地域等への対応は、地域公共交通活性化協議会で今後検討します。今年度中に、便利で体系的な公共交通ネットワークと、地域で支える持続可能な地域公共交通の運営体制づくりを目指した、地域公共交通総合連携計画を策定します。

このほか

- 南桜井駅北側道路の拡幅を
- 福祉タクシー券等を、少なくとも削減前の水準に戻せ
- 平成21年9月定例会で採択のとおり、少人数学級の早期実施を



春バス運行コースの
再考を提案する



荒木 洋美
議員

合併前の庄和地域では、月から金曜日まで、2台の循環福祉バスが無料で運行していました。合併後の庄和地域の春バスの運行は、月・水・金曜日の2つの運行コースと、火・木・土曜日の1つの運行コースに限られています。春バスが通らなくなった神間や水角等の地域では、バス停もなくなり、西宝珠花地区では運行コースが変更になったことから、病院や駅へ買い物に出掛ける多くの皆さんが不便さを感じるようになりました。

そこで、庄和地域の多くの皆さんに春バスを利用してもらうために、月・水・金曜日の運行コースのうち、月曜日の運行を庄和地域内の循環コースの運行に当てることはできないのか、市の考えをお聞かせください。

○都市整備部長
春バス路線の運行コースの変更については、地域公共交通

通総合連携計画を策定する過程において、市内公共交通の現状を十分に把握した上で、総合的に検討していきたいと考えています。

このほか

- 小中学校の朝読運動の現状及び家読運動の進捗状況と「子ども司書」の進捗状況について
- 各公民館のパソコンの修理状況と正風館・コミュニティセンターへの閲覧新聞の継続について
- 不登校について
- 「子ども条例」の制定を提案する

春バスの運行状況と成果
無路線バス地区の要望と対応は



小島 文男
議員

春バスは、利益本位の運行ではなく、高齢者や体の弱い人が利用することなどを身近に考えて運行する必要があります。

また、幸松地区には、路線バスや春バスの運行がない地域があり、お年寄りだけでなく、買物に行くに

も不便な場所があります。

春バスの運行を検討する話を聞いていますが、検討ではなく、困っている人を助けるために、すぐに実現することができないか伺います。

都市整備部長

春バスの運行は、現在4路線で行われています。1カ月平均で約4540人の利用者があり、順調に増加しています。平成21年10月に地域公共交通活性化協議会を設置し、市内公共交通の現状把握を進めています。今後、公共交通空白地域の抽出や地域の意向把握を行い、実情に沿った運行計画を検討し、今年度中に市内全域を見据えた地域公共交通総合連携計画を策定する予定で取り組んでいます。

市長

今後、公共交通空白地域におけるバス路線の必要性を検証し、当市に適した公共交通の充実に取り組んでまいります。

このほか

- 自治会連合会、各種団体への補助金の減額について
- 東中学校改築の進捗状況について